

民活事業報告書（平成31（令和元）年度）

事業名：多摩地域ユース・プラザ運営等事業

教育庁地域教育支援部

第1 事業概要

旧東京都立八王子高陵高等学校(以下「学校施設」という。)を改修・整備して運営を行ってきた多摩地域ユース・プラザ整備等事業の終了に伴い、引き続き多摩地域ユース・プラザとして、文化・学習施設、スポーツ施設、野外活動施設、宿泊施設等から構成される施設(以下「本件施設」という。)の一体的な運営を行う。

1 所在地

東京都八王子市川町55番地

2 事業内容

(1) 施設の運営

ア 文化・学習施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

イ スポーツ施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

ウ 野外活動施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

エ 宿泊施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

オ 社会教育業務（講座・体験活動・交流等）の実施

カ 青少年の活動に関する相談への対応並びに情報の収集及び提供

キ 利用者に対する飲食の提供及び物品の販売

ク 文化・スポーツ教室の主催等及び施設を有効利用する観点から行う各種の事業

ケ 施設の利用促進を図るために必要となる営業及び広報活動

(2) 施設の維持管理

建築物保守管理業務ほか施設の維持管理のために必要な一切の業務

3 事業期間

運営を開始した日から10年間とする。

○方式とし、事業期間終了時に都に本件施設等を返還する。

第2 事業評価

1 利用実績

(1) 宿泊利用実績

ア 宿泊室

利用実績						事業者提案	
平成31(令和元)年度		平成30年度		増減		利用者数	利用率
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b		
31,909人	44.3%	33,739人	46.9%	△1,830人	△5.4%	33,800人	47%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員204人×営業日数)で除した割合

イ テントサイト

平成31(令和元)年度		平成30年度		増減	
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b
949人	2.7%	1,159人	3.3%	△210人	△18.1%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員100人×営業日数)で除した割合

(2) 活動施設利用実績

利用実績			
平成31(令和元)年度 (a 利用者数)	平成30年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
98,641人	99,781人	△1,140人	△1.1%

(3) その他日帰り利用実績

平成31(令和元)年度 (a 利用者数)	平成30年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
18,927人	18,872人	55人	0.3%

(4) レストラン利用実績

平成31(令和元)年度 (a 利用者数)	平成30年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
125,167人	131,195人	△6,028人	△4.6%

(5) 利用料金等収入実績

(金額：千円)

種別	平成31(令和元)年度 (a 金額)	平成30年度 (b 金額)	増減		事業者提案
			a-b	(a-b)/b	
利用料金	128,711	128,646	65	0.1%	
その他	9,353	10,068	△715	△7.1%	
合計	138,064	138,714	△650	△0.5%	148,698

※ 利用料金には、備品、活動支援プログラム及び社会教育事業参加費を含む。

※ その他には、売店、自動販売機等を含む。

2 モニタリング

(1) 業務履行確認

ア 履行確認の考え方

都は、事業者が本件契約において定められた公共サービスを提供することを条件として、サービス購入料を支払い、建物及び土地の無償での利用を認める。そこで、都は、都の要求水準が満足されているか否かについて、履行確認を行う。

イ 業務履行確認の方法等

別紙1のとおり

(2) 財務状況等の監視

都による京王ユース・プラザ（株）（以下「SPC」という。）の財務状況等の監視については、本件事業契約上の規定により、事業期間の終了に至るまで、各事業年度の最終日から90日以内に公認会計士の監査済財務書類を都に提出し、かつ、協議会において都に対して監査報告を行うこととしている。

平成31（令和元）年度分監査報告については、令和2年6月24日の協議会において報告を受け、公認会計士による監査済みであることを確認した。

第3 SPCの経営状況

損益計算書

〔平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月31日まで〕

科 目	金 額	
	千円	千円
営業収益		508,563
営業費用		471,170
売上総利益		37,392
一般管理費		13,566
営業利益		23,826
営業外収益		
受取利息	983	
雑収入	4,193	5,176
営業外費用		
雑支出	0	0
経常利益		29,002
特別利益		
固定資産受贈益	0	0
税引前当期純利益		29,002
法人税、住民税及び事業税		10,206
法人税等調整額		△ 285
当期純利益		19,081

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

貸借対照表

(令和 2年 3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	737,048	流 動 負 債	229,753
現金及び預金	1,460	未 払 金	219,858
運 用 預 け 金	610,427	未 払 消 費 税 等	0
未 収 入 金	106,685	未 払 法 人 税 等	4,921
未 収 消 費 税 等	10,820	前 受 金	3,545
商 品	602	預 り 金	1,184
仕 掛 品	1,839	前 受 収 益	243
貯 蔵 品	1,440		
前 払 費 用	3,742		
その他の流動資産	29		
固 定 資 産	194,080		
有 形 固 定 資 産	145,237	負 債 の 部 合 計	229,753
建 物			
構 築 物	5,830		
工 具 器 具 備 品	8,267		
無 形 固 定 資 産	0	(純 資 産 の 部)	
ソ フ ト ウ ェ ア	0	株 主 資 本	701,375
投 資 そ の 他 の 資 産	48,843	資 本 金	50,000
繰 延 税 金 資 産	3,823	資 本 剰 余 金	50,000
長 期 差 入 保 証 金	45,020	資 本 準 備 金	50,000
		利 益 剰 余 金	601,375
		そ の 他 利 益 剰 余 金	601,375
		繰 越 利 益 剰 余 金	601,375
		純 資 産 の 部 合 計	701,375
資 産 の 部 合 計	931,129	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	931,129

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

第4 総合評価

1 利用実績

平成31（令和元）年度は多摩地域ユース・プラザ運営等事業の5年目となり、新たな活動プログラムの提供やイベントの開催、大規模空調更新工事を実施した。また、交通広告に加え企業やファミリー向けの告知サイト等様々な広告媒体を活用して広報活動を行った。

学校団体や青少年団体などによる利用が中心ではあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による国や都の外出自粛要請等の影響を受け、全体的に利用者数が前年実績より下回った。宿泊利用実績と活動施設利用実績については以下のとおりである。

平成31（令和元）年度の宿泊室利用実績は、前年度比1,830人減の31,909人となり、事業者提案時の計画33,800人を1,891人下回る実績となった。

活動施設利用実績は、前年度比1,140人減の98,641人となった。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、利用者が安心安全に施設を利用できる環境を整えるようSPCに働き掛けを行っていく。

2 業務の履行状況

運営業務については、前年度に引き続き、活動室などの施設提供業務をはじめ、SPCのノウハウを活用した効果的・効率的な履行がなされた。

ユース・スクエア事業については、活動団体の発表の場や青少年のボランティアの活動の場としてニーズが高まりつつあり、活動プログラムについても前年度にも増して内容の充実を図るなど、利用者の多様なニーズに応える努力もなされた。

社会教育事業については、野外活動型施設の特長を生かし、利用者に魅力のある事業が実施されている。公共性・社会性や都の施策、施設を訪れる青少年等の傾向・特徴等を踏まえた上で、多角的ニーズに応える、より現実や実態に即した事業とするため、今後も教育庁の専門職員（社会教育主事）によるSPCに対する助言を行っていく。

3 経営状況

SPCの経営状況は、損益計算書によると、当期純利益は19,081千円であった。事業者提案時の計画における当期利益8,711千円を上回っている。

また、貸借対照表によると、負債の合計が229,753千円であった。流動資産は737,048千円であり、流動負債229,753千円を大きく上回っていることから、資金繰りについても健全なものであったと認められる。

以上のことから、令和2年3月末の時点においてSPCの経営状況は健全なものと認める。

業務履行確認の方法等

	方 法	回 数	指 標
業務の履行確認	書類（業務報告書）による確認 計画どおりに業務を行っていることを確認した。 ※ 提出時にヒアリングを実施した。	12回 (月1回)	年間業務計画 ※ 年間業務計画は、業務要求水準、事業者提案、事業契約、その他確認事項に基づき前年度に作成し、都が確認する。
施設の運営及び維持管理状況の確認	現地立入確認 ヒアリング 日報等記録の確認 施設の視察 業務要求水準等に基づき適正に運営・維持管理されていることを確認した。	4回 (1)R1.7 (2)R1.10 (3)R2.1 (4)R2.4(書面開催)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
利用者モニタリング	利用者アンケート 事業者が行っているアンケートの内容及び対応をヒアリング確認することにより、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	4回 (1)R1.7 (2)R1.10 (3)R2.1 (4)R2.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
	利用者懇談会 事業者が開催する利用者懇談会の記録の確認により、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	1回 (R1.12)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
社会教育事業履行確認	書類（業務報告書）による確認 事業が計画どおりに実施されていることを確認した。	12回 (月1回)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画及びモニタリング事項 社会教育事業等企画委員会における協議事項等

経営成績について

京王ユース・プラザ株式会社

「高尾の森わくわくビレッジ」は開業から15年目となり、施設が陳腐化しないように、多様化する施設利用者のニーズに対応し、新たな活動プログラムの提供やイベント開催、利用者からのご意見に対する迅速な対応、施設の修繕や備品の整備など顧客満足度の向上に努めてまいりました。また、交通広告に加えて、企業やファミリー向けの告知サイトほか様々な広告媒体を活用して広報活動を行い、施設利用者数の確保に努めました。さらに、2018年度から継続して実施している空調機更新工事について、コンソーシアム各社と連携して着実に工事を推進し、環境にやさしく、施設利用者が快適にご利用いただける環境整備を推進いたしました。

施設の利用状況につきましては、学校団体や青少年団体などを中心にご利用いただきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による政府や東京都からの外出自粛要請等の影響を受け、年間の宿泊者数につきましては前年を下回る31千人、活動施設の利用者数につきましても前年を下回る98千人となりました。

収支状況に関しましては、営業収益が対前年1百万円増の508百万円、営業費用は対前年1百万円増の471百万円となりました。

以上の結果、経常利益は前年とほぼ同額の29百万円、当期純利益も前年とほぼ同額の19百万円となりました。

損益計算書について

京王ユース・プラザ株式会社

営業収益は、対前年 685 千円増の 508,563 千円を計上しました。増減内訳は、東京都からのサービス購入料が企業物価指数の上昇による改定等により 1,335 千円の増となりました。

また、現地収入が利用者減による宿泊収入の減等により 649 千円の減少となりました。

営業費用は、対前年 1,378 千円増の 471,170 千円を計上しました。主な支出内容は売上原価、修繕費、業務委託費、販売広告費、水道光熱費等で、増減内訳は売上原価 7,897 千円の増、空調換気設備更新等による減価償却費 4,004 千円の増、修繕費 6,955 千円の減、水道光熱費 3,390 千円の減等によるものです。

一般管理費は、対前年実績とほぼ同じ 13,566 千円を計上しました。主な支出内容は役員報酬、業務委託費等です。業務委託費は主に京王アカウンティングに対する経理業務委託費です。

その結果、営業利益は 23,826 千円となりました。

営業外収益は 5,176 千円で、受取利息の他、N T T ドコモ・ソフトバンクのアンテナ設置料等を計上しております。

営業外費用は 169 円です。

以上の結果、経常利益は 29,002 千円となりました。

特別利益、損失の計上はありませんでした。

その結果、税引前当期純利益も同じく 29,002 千円となりました。

法人税、住民税及び事業税および法人税等調整額を差し引いた当期純利益は 19,081 千円となりました。

貸借対照表について

京王ユース・プラザ株式会社

当期末の総資産は、931百万円となりました。前期末と比較して、92百万円の増加となっております。増加の主なものは、資産の部で有形固定資産が129百万円の増加、負債の部で未払金が80百万円の増加、純資産の部で当期純利益の計上により繰越利益剰余金が19百万円の増加です。

各科目の主な内容は、以下のとおりです。

流動資産は、対前年36百万円減の737百万円となりました。

現金及び預金は、ほとんどがお客様からお預かりしている予約金です。

運用預け金は、余剰資金を京王電鉄グループ内キャッシュマネジメントシステムで資金運用をしております。損益計算書の営業外収益・受取利息はこの資金運用によるものです。

未収入金は、第4四半期分サービス購入料等です。

商品は売店の商品です。

仕掛品は建物修繕費の翌年度分です。

貯蔵品は、パンフレットや収入印紙等です。

前払費用は火災・傷害保険料の翌年度分等です。

固定資産は、対前年129百万円増の194百万円となりました。

このうち有形固定資産は空調換気設備、防獣フェンス等です。

繰延税金資産は、未払事業税、事業所税および一括償却資産相当分です。

長期差入保証金は、東京都への契約保証金です。

以上により、資産の部は対前年92百万円増の931百万円になりました。

次に、負債の部は対前年73百万円増の229百万円となりました。

未払金は京王電鉄への業務委託料等の未払分です。

前受金は、お客様から預かっている予約金です。

預り金は、館内レストラン（レストラン京王）の売上金です。

前受収益は、翌年度分のアンテナ設置料等です。

最後に純資産の部ですが、資本金、資本剰余金は増減なく、利益剰余金に当期純利益 19 百万円を加算した結果、純資産の部は対前年 19 百万円増の 701 百万円になりました。